

部局名：地域連携部

平成31年度当初予算知事査定ヒアリング資料

順番	細事業名	事業費(単位:千円)	ページ
1	三重とこわか国体・三重とこわか大会開催準備事業費	813,662	1
2	競技力向上対策事業費	689,153	4
3	世界と結ぶ東紀州インバウンド事業費	2,200	8
	合 計	1,505,015	

平成30年度2月補正予算知事査定ヒアリング資料

順番	細事業名	事業費(単位:千円)	ページ
	合 計	0	

平成31年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 地域連携部国体・全国障害者スポーツ大会局
総務企画課、競技・式典課、運営調整課

事業概要

細事業名		三重とこわか国体・三重とこわか大会開催準備事業費					区分	継続
施策		241	競技スポーツの推進					
基本事業		24102	国民体育大会の開催準備の推進					
		目標項目		30年度実績値		31年度目標値		
		国体開催に向けた広報ボランティアの延べ活動人数		—		970人		
根拠 (法令等)		スポーツ基本法 障害者基本法第25条						
予算額等	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	予算額	/		76,721千円	91,500千円	581,168千円		
	決算額	25,505千円	51,879千円	61,975千円				
事業の目的		三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催に向け、国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の開催県や開催予定県からの情報収集、実行委員会総会等の開催、輸送交通対策や宿泊施設の確保、式典への対応、競技役員の養成、情報支援ボランティア等の養成、県民への周知など、開催準備を円滑に行えるようにします。						
事業目標		<ul style="list-style-type: none"> ○各種方針・計画の策定 ○開催機運の醸成 ○両大会を支えるボランティアの確保 ○支援制度の推進 ○市町競技施設整備費補助金の申請に係る審査・交付等を通じた会場地市町の開催準備の促進 ○会場地のバリアフリー化 						
前年度からの変更点		<ul style="list-style-type: none"> ○開催700日前となる節目の時期に、700日前イベントを開催します。 ○両大会の開・閉会式等でボランティア活動を行う運営ボランティアの募集を開始します。 ○広報紙を発行します。 ○総合開・閉会式の式典実施計画を策定します。 ○国体において県と市町が合同で宿泊施設の一元管理と一括配宿を行う合同配宿業務を実施します。 ○国体における安全・確実かつ円滑な輸送を行うため、輸送実施計画を策定します。 ○大会における宿泊施設の確保や安全かつ確実な輸送を行うため、宿泊・輸送実施計画を策定します。 ○国体・大会における開・閉会式会場の設計に取り組みます。 ○大会における競技会場の設計に取り組みます。 						

事業の必要 性と期待さ れる効果	<p>三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催準備を円滑に進めるためには、市町及び競技団体と協議・調整を行うとともに、先催県や開催予定県からの情報収集等に取り組む必要があります。</p> <p>また、開催について広く県民に周知し、県民力を結集する機運を醸成していくことが必要です。</p> <p>県内競技団体が審判員や運営員等、競技役員を養成することにより、円滑な競技運営が可能になるとともに、国体後の競技の普及・強化に寄与します。</p>
------------------------	--

取組詳細

取組概要	<p>三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催に向け、先催県や開催予定県から情報を収集し、実行委員会総会等を開催します。また、会場地市町や競技団体と連携しながら、競技施設整備、輸送交通対策、宿泊施設の確保、競技役員の養成・編成など円滑な運営に向けた準備を進めるとともに、広報並びに県民運動を展開します。</p>
------	---

取組内容等

(1) 三重とこわか国体・三重とこわか大会開催準備事業費 事業費 813,662 千円 (県費 690,644 千円)

①第 76 回国民体育大会開催準備事業費 (H30: 58,628 千円 → H31: 215,267 千円)

【特に注力する主な取組】

ア 広報・県民運動 (70,491 千円)

- ・開催 700 日前となる節目の時期に、700 日前イベントを開催します。
- ・県内全域でとこわかダンス指導のキャラバンを実施します。
- ・国体・大会の周知とともに、多くの方に取り組んでもらえるようとこわか運動を広めます。

イ 式典 (28,600 千円)

- ・三重県らしさを盛り込んだ開・閉会式の式典について検討していきます。

ウ 競技役員等養成 (28,374 千円)

- ・競技会の円滑な運営を図るため、競技役員 (審判員や運営員) 等の養成を行います。

エ 宿泊 (23,047 千円)

- ・国体において県と市町が合同で宿泊施設の一元管理と一括配宿を行う合同配宿業務を実施します。

オ 開・閉会式会場整備 (8,993 千円)

- ・国体・大会における開・閉会式会場の設計に取り組みます。

カ 輸送 (6,625 千円)

- ・国体における安全・確実かつ円滑な輸送を行うため、輸送実施計画を策定します。

②第 76 回国民体育大会市町競技施設整備補助金 (H30: 509,111 千円 → H31: 556,743 千円)

- ・国体の円滑な運営や競技会場の整備促進に向けた会場地市町への施設整備補助事業を実施します。

③第 21 回全国障害者スポーツ大会開催準備事業費 (H30: 13,429 千円 → H31: 41,652 千円)

【特に注力する主な取組】

ア 競技役員、情報支援ボランティア等養成 (13,255 千円)

- ・大会を支える競技役員や情報支援ボランティアを計画的に養成していきます。

イ 競技会場整備 (7,986 千円)

- ・大会における競技会場の設計に取り組みます。

ウ 宿泊・輸送 (5,569 千円)

- ・大会における宿泊施設の確保や安全かつ確実な輸送を行うため、宿泊・輸送実施計画を策定します。

平成31年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 地域連携部スポーツ推進局 競技力向上対策課

事業概要

細事業名		競技力向上対策事業費					区分	継続
施策		241	競技スポーツの推進					
基本事業		24101	競技力の向上					
		目標項目		30年度実績値		31年度目標値		
		全国大会の入賞数				142件		
根拠 (法令等)		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ基本法 ・三重県スポーツ推進条例 ・三重県スポーツ推進計画 						
予算額等	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度		
	予算額		264,998千円	241,563千円	340,000千円			
	決算額	170,694千円	250,764千円	237,087千円				
事業の目的		<ul style="list-style-type: none"> ・本県アスリートの育成・強化を進めることで、平成33年に本県で開催する第76回国民体育大会において、本県アスリートが活躍し、天皇杯（男女総合優勝）・皇后杯（女子総合優勝）の獲得を目指し、総合的・計画的に競技力向上対策をすすめるとともに、国民体育大会終了後も安定した競技力を確保することを目的とします。 						
事業目標		<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年5月に設置した「三重県競技力向上対策本部」を中心として、県体育協会、競技団体等関係機関と連携し、「三重県競技力向上対策基本方針」に基づき、第74回国民体育大会（平成31年）における男女総合成績10位以内の獲得とともに、全国大会入賞件数142件を平成31年度の目標値に設定しました。 						
前年度からの変更点		<ul style="list-style-type: none"> ・三重県競技力向上対策基本方針において定めた「躍進期」の最初の年を迎えることから、一定の成果を上げた事業や終期を迎えた事業を見直すなど、競技力向上対策事業を精査したうえで、平成31年の茨城国体や平成33年の三重とこわか国体へ向けた取組を進めます。 						
事業の必要性と期待される効果		<ul style="list-style-type: none"> ・平成33年の三重とこわか国体において、天皇杯・皇后杯の獲得を目指すためには、計画的かつ戦略的な取組が必要です。これまでの継続的な競技力向上の取組によって、競技力向上へ向けた基盤や体制は、それぞれの競技団体で整いつつあります。このことから、引き続き競技団体への支援を行うことで、より一層の育成・強化を進めていく必要があります。 ・三重とこわか国体において成年種別の選手となる年齢層（ターゲットエイジ）が、平成31年度から順次高校生となることから、このターゲットエイジを中心に、ジュニア・少年選手の育成・強化に取り組みます。 						

- ・ トップアスリートの就職支援や東京オリンピック・パラリンピック競技大会及び三重とこわか国体において本県選手が活躍できるよう、本県出身の成年選手や県内の大学運動部、企業・クラブチームの強化指定により、成年選手の安定した競技力を確保する必要があります。
- ・ 今年度から新たに開始した「チームみえ・コーチアカデミーセンター」について、得られた成果や課題を十分に検証するとともに、講師や受講者の意見などをふまえ、取組を充実させていきます。
- ・ 女性アスリートの指導者養成や女性特有の課題解決へ向けて研修会を開催することで、女性がスポーツで活躍できる環境整備を図る必要があります。また、平成 28 年度に着手した女性アスリートの発掘に引き続き取り組むことにより、国内外で活躍する女性アスリートの育成・強化を進める必要があります。

取組詳細

「三重県競技力向上対策本部」を中心として、各関係団体との連携を図りながら事業の推進を図ります。

【ターゲットエイジの育成・強化】

三重とこわか国体で少年種別の中心となるターゲットエイジ（U18 競技：高1～中1 U16 競技：中3早生まれ～中1）の育成・強化を図り、関係する競技団体やクラブチーム、学校と連携し、競技力向上を図るとともに、強化活動を支援することで国体後もトップアスリートや指導者として成長し、活躍する選手の強化を行います。また、国内外での活躍が期待できるジュニア・少年選手を「チームみえスーパージュニア」として指定し、県民の皆さん等からの寄附金を活用してその強化活動を支援します。

【指導者の養成・確保】

ジュニア・少年選手の育成を図るとともに、三重とこわか国体の後も継続して三重の競技スポーツを担う人材育成につなげるため、今年度開始した全国初・唯一の事業である「チームみえ・コーチアカデミーセンター」の取組をさらに進めます。

【成年選手の育成・強化】

就職支援等により、トップアスリートの県内企業等への定着を進めるとともに、県内に定着したアスリートが平成 31 年の第 74 回国民体育大会や平成 33 年の三重とこわか国体で活躍できるよう、競技団体の強化活動を支援します。また、大学運動部、企業・クラブチーム、成年選手の強化指定を行います。

【女性アスリートの発掘・育成】

国内外の大会において活躍できる女性アスリートの発掘・育成をさらに進めます。また、女性アスリートを指導する指導者の資質向上を図るとともに、女性アスリートが抱える課題を解決するため、研修会の開催に取り組みます。

取組概要

【環境整備】

ボート、ヨット、カヌー、自転車、馬匹など、競技出場及び得点獲得に不可欠となる競技用具等競技用具、馬匹の整備を計画的に行います。

【啓発・広報】

チームみえの広報に取り組み、スポーツを「する人」、「みる人」、「支える人」の一体感を醸成します。

【顕彰】

全国、国際スポーツ競技大会において優秀な成績を収め、広く県民にスポーツの範となり、県民の士気高揚に貢献したものについて表彰します。

取組内容等

競技力向上対策事業

事業費 689,153 千円（県費 449,653 千円）

平成 31 年度は、「三重県競技力向上対策基本方針」において位置付けた躍進期を迎えることから、躍進期の目標である男女総合成績 10 位以内を獲得するため、各競技団体の現状に即した効果的な強化対策に着手に取り組み、三重とこわか国体での天皇杯・皇后杯獲得を着実なものとしていきます。

【主な事業概要】

○ **少年種別の強化**

三重とこわか国体において少年種別の選手となる年齢層（ターゲットエイジ）が、平成 31 年度から順次高校生となることから、このターゲットエイジを中心に、ジュニア・少年選手の育成・強化を図ります。

「ターゲットエイジ育成・強化事業」（H30：49,459 千円 → H31：79,757 千円）

これまでのジュニア・少年選手の育成・強化に関する各事業を統合・再編し、それぞれの競技や強化活動の実態に応じ、ターゲットエイジを中心とする育成・強化が最も効果的に図られるよう、支援を実施します。

H30 までのジュニア・少年種別の育成強化に関する事業

- ・ チームみえジュニア育成事業（競技団体を対象）
- ・ ジュニアクラブ強化指定事業（民間のスポーツクラブを対象）
- ・ 高等学校運動部強化指定事業（高等学校を対象）
- ・ 中学校運動部活動強化指定事業（中学校を対象）

○ 指導者の養成・確保

ジュニア・少年選手の育成を図るとともに、三重とこわか国体の後も継続して三重の競技スポーツを担う人材育成につなげるため、今年度開始した全国初・唯一の事業である「チームみえ・コーチアカデミーセンター」の取組をさらに進めます。

「チームみえコーチアカデミーセンター事業」 (H30：35,000千円 → H31：63,967千円)

第1期生23名に実施した平成30年度の事業で得られた成果や課題を十分に検証するとともに、講師や受講者の意見などをふまえ、新たに第2期生20名(予定)に対し「みえコーチアカデミー」及び「みえマルチサポートシステム」を実施することで、指導者の資質向上と、指導体制の構築を一層進めます。

○ 成年選手の強化

天皇杯を獲得した今年の福井県や、獲得できなかった昨年の愛媛県の得点力を分析すると、天皇杯獲得のためには、少年種別で東京都と接戦に持ち込むとともに、成年種別で東京都を大きく引き離すことが必要です。

他方、東京オリンピック競技大会に向けて競技環境の整った東京都での競技活動を希望する選手が増え、東京都の得点力が増していることから、一層の選手の獲得・強化が必要です。

このため、スカウト体制を充実させ、全国大会等で活躍する選手の獲得等を一層進めるとともに、本県に定着したアスリートが今後の国民体育大会等の国内外の大会で活躍できるよう、練習環境や競技環境の整備を進めます。

「スポーツ指導員配置事業」 (H30：54,813千円 → H31：182,720千円)

トップレベルのアスリートにとっても魅力的なキャリアの選択肢であるスポーツ指導員について、基準を徹底しながら一層の受け入れ拡大を図り、成年種別の得点力を確実なものとしします。

「チームみえ国体強化事業」 (H30：85,000千円 → H31：180,000千円)

「トップ選手育成支援事業」 (H30：20,000千円 → H31：12,920千円)

就職支援事業により県内の企業に定着したアスリートや、スポーツ指導員等が今後の国民体育大会等の国内外の大会で活躍できるよう、各競技団体が実施する強化活動を支援します。

また、入賞レベルに近づきつつある競技についても、三重とこわか国体で確実に成果があげられるよう、計画的、戦略的に強化活動を進めます。

「競技用具等事業」 (H30：29,188千円 → H31：81,645千円)

ボート、ヨット、カヌー、自転車、馬匹など、競技出場及び得点獲得に不可欠となる競技用具等について、これまでの整備に加え、平成31年度及び32年度で重点的、計画的に整備します。

平成31年度事業マネジメントシート（事務事業）

担当課 地域連携部南部地域活性化局 東紀州振興課

事業概要

細事業名		世界と結ぶ東紀州インバウンド事業費					区分	一部新	
施策		252	東紀州地域の活性化						
基本事業		25202	地域資源を生かした集客交流						
		目標項目		29年度実績値		31年度目標値			
		熊野古道の来訪者数		337千人		450千人			
根拠 (法令等)									
予算額等	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度			
	予算額								
	決算額								
事業の目的		<p>インバウンドは2016年に2,404万人、2017年に2,869万人、2030年には6,000万人（目標）と増え続けています。</p> <p>欧米豪のインバウンドは文化・歴史・ライフスタイル、世界遺産への関心が高く、東紀州地域は世界遺産熊野古道をはじめ、日本の文化や生活を色濃く残しており、インバウンドにとって魅力的な資源を有しています。</p> <p>このため、欧米豪のインバウンドを主なターゲットに戦略的なプロモーション活動などで誘客促進を図り、観光関連産業を活性化させ、働く場の創出につなげていくことを目的とします。</p>							
事業目標		<p>【定量目標】</p> <p>2021年の東紀州地域におけるインバウンド宿泊者数の伸び率 150 (平成30(2018)年を100とする)</p>							
前年度からの変更点									
事業の必要性と期待される効果		<p>2019年(平成31年度)は熊野古道が世界遺産に登録されて15周年になります。また、2019年はラグビーワールドカップが開催されるとともに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、訪日旅行を検討している外国人旅行者にアプローチする絶好のタイミングであることから、インバウンド向け観光プロモーションや観光サービスの高付加価値化に取り組む必要があります。</p>							

平成 22 年度からは三重・奈良・和歌山県連携事業「吉野・高野・熊野の国」として、熊野古道等の魅力を大都市圏に向けて発信し、主に国内誘客に取り組んできましたが、今後は増加するインバウンドの誘客に向けた取り組みが必要です。

こうした中、7 月の紀伊半島知事会議では 3 県が連携してインバウンドを取り込むことで合意されました。

東紀州地域の周辺に目を向けると、隣接する和歌山県においては平成 29 年の場合、高野町で約 8 万 4 千人（前年比 10%増）、田辺市で約 3 万 7 千人（前年比 19%増）となっており、高野町ではそのうちの約 86%が、田辺市では約 60%が欧米豪のインバウンドで、欧米豪の歴史・文化等への関心の高さが伺えます。

そのため、欧米豪のインバウンド誘客に向けた広域的な情報発信を行うとともに、近隣の和歌山県などから東紀州地域へインバウンドを周遊させることをめざします。

また、2019 年度にはラグビーワールドカップが開催され愛知県等が会場となっています。ラグビーは欧米豪で盛んなスポーツで、観戦者は富裕層が多く長期間滞在することから、愛知県などと連携し、中部、名古屋方面からの来訪促進につなげていきます。

取組詳細

紀伊半島インバウンド誘客事業

熊野古道は 2004（平成 16）年 7 月 7 日に世界遺産に登録され、2019（平成 31）年に登録 15 周年を迎えます。伊勢志摩サミット後は、東紀州地域へのインバウンドの来訪が徐々に増えつつあり、東京オリンピック、パラリンピックなどビッグイベントの開催によりインバウンドを誘客するチャンスを迎えています。

15 周年では、インバウンド誘客に取り組み、持続可能な観光地域づくりに取り組んでいきます。

そのなかで、和歌山県高野町や田辺市等には、多くのインバウンドが訪れており、特に欧米豪のインバウンドが増加しています。このインバウンドを東紀州地域に呼び込むためプロモーションを行います。

取組概要

取組内容等

【予算額（うち県費額）】2,200 千円（1,100 千円）

紀伊半島インバウンド誘客事業

(1) F I T をターゲットとしたプロモーション

和歌山県高野町や田辺市等には、多くのインバウンドが訪れており、特に、欧米豪のインバウンドが増加しています。

彼らの滞在日数は、13 日から 15 日程度と、台湾や香港などのアジア系のインバウンドに比べると 2 倍以上となっています。また、F I T の占める比率が高く、田辺市熊野ツーリズムビューローによれば、現地に來てから行き先を決める傾向が強いとも聞いています。

そこで、外国人目線でアドバイスをいただきながら、英語版のリーフレットを作成し、高野町や田辺市の宿泊施設や観光施設に設置することで東紀州地域へのインバウンド誘客を図ります。また、これに併せて外国人のアドバイスをうけながらホームページの充実を図ります。

(2) クルーズ船寄港に対応したプロモーション

新宮市においては、「新宮港クルーズ振興広域協議会」を平成30年7月に設立しました。新宮港では、平成30年度15隻（今後の予定含む）のクルーズ船が寄港し、平成31年度も上半期の予定として6隻の寄港が予定されています。

新宮港にクルーズ船で訪れる観光客は、主に熊野三山や瀨峡をオプションツアーで回っており、東紀州地域が組み込まれたコースは少ないのが現状です。

そこで、新宮市等と連携して、船会社やエージェントへ東紀州地域のオプションツアーのセールスを行い、東紀州地域へのインバウンドの誘客を図ります。